

私立大学研究ブランディング事業

令和2年度の進捗状況

学校法人番号	131045	学校法人名	学校法人大東文化学園		
大学名	大東文化大学				
事業名	漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の"道"」研究教育の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	平成30	年度～	令和2 年度
参画組織	文学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、東洋研究所、書道研究所、大東文化歴史資料館、図書館、国際交流センター				
事業概要	現代社会が直面する人文主義の諸問題に、東洋の"道"と"書"の思想と芸術の立場から提言を試みる。建学以来、「漢学・書道の大東」として培ってきた東洋人の知的資源（漢籍・書跡）を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、東洋人の"道"の学際的研究拠点としてのイノベーション研究を行い、全学的研究機構を設置して国内外に向けて発信することにより、「東洋人の"道"を育てる大学」というブランド確立を目指す。				
①事業目的	本事業は、大東文化大学（以下、本学）の最も大きな特色の一つである「漢学・書道」を中心に展開する。その目的は、建学以来継承されてきた「漢学・書道」に関する知的資源を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、これを学際的に発展させ、東洋人の思想、すなわち「東洋人の"道"〈ヒューマニティー〉」思想に係る世界的なイノベーション研究拠点となることにある。研究成果を国内外に発信し、教育へと還元することで、本学の建学の精神に謳う「儒教に基づく道義」に根差した「東洋人の"道"を育てる大東文化大学」というブランドイメージの定着を目指す。				
②令和2年度の実施目標及び実施計画	<p>【研究目標】 大東文化大学が所有する東洋の知的資源をデジタル化し、アーカイブスの運用を開始する (達成度指標: デジタル・アーカイブスの一部先行公開の実施状況等)</p> <p>【ブランディング戦略目標 (認知の確立)】 漢学・書道の知的資源に関する情報発信による研究取り組みの認知度向上② (達成度指標: 多言語版特設サイトの閲覧状況等)</p> <p>【研究実施計画】 ■「大東文化大学漢籍・書跡デジタル・アーカイブス(仮称)」、「拓本コレクション」等の一部先行公開(A・B・C・F) ■図書館の漢籍・書跡目録と合せて総合的に点検・精査し、「大東文化大学漢籍総合目録」・「大東文化大学書跡総合目録」を作成(～令和3年度)(A・B) ■本学草創期の教員の活動業績等の調査・研究結果を大東文化大学百年史編纂サイト「継往開来」に公表(～令和4年度)(C) ■本事業の中間報告の取りまとめをおこない、それを基にしたシンポジウム等の開催(全体)</p> <p>【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成指標を上げることを図る) ◇デジタル・アーカイブスの先行公開の実施(公開予定数の60%以上を公開)(A・B・C・F) ◇「継往開来」に研究結果の公表の開始(C) ◇シンポジウムまたは公開講座の開催 ※いずれか1回以上開催(全体)</p> <p>【ブランディング実施計画】 ■アジア圏における書道を通じたワークショップ等の国際交流事業の実施 ■データベースの公開開始を海外の協定校(約100校)に周知</p> <p>【ブランディング実施計画達成基準】 ◇アジア圏における書道を通じた国際交流事業の実施 ◇データベース公開実施の周知による特設サイトのアクセス数 20%アップ ◇「Daito BASIS」の受講者数 10%アップ(前年比)</p>				

<p>③令和2年度の事業成果</p>	<p>【研究事業成果】 ・令和元年度に写真撮影した資料(漢籍、書道学科・書道研究所所蔵の書跡、自校史、折本・冊子の拓本)のデジタルアーカイブスのデータ・解説(日本語)が完成し、「大東文化大学デジタル・アーカイブサイト」にて公開された。 ・令和2年度の写真撮影(図書館所蔵の書跡、マクリの拓本)が完了し、解説文の作成を継続している。写真のデータ処理・解説文作成次第、デジタルアーカイブスサイトに追加登録を行う予定である。 ・「Daito BASIS(論語)」のテキスト作成が完成した。 ・「大東文化大学所蔵書跡総合目録」の編集がほぼ終了した。 ・経営道に関する研究を進め、出版物としてその成果をとして公表した ・「書道とスポーツ・健康科学の研究(書道の科学)」に関する研究成果として、バイオメカニクス研究(令和2年24巻(令和2年7月発刊))に下記の論文が掲載された。 「一流書家の揮毫における運筆の特徴に関するバイオメカニクスの事例研究」(川本 竜史, 河内 利治, 宮城 修, 田中 博史, 高橋 将, バイオメカニクス研究, 令和2年24巻, p. 1-7)</p> <p>【ブランディング事業成果】 ・国立台湾芸術大学とのシンポジウム・ワークショップについては、本学の知的財産デジタル化の成果を国立台湾芸術大学へ紹介することを主眼に、「Microsoft Teams」を利用したオンラインで実施。 ・AERA での広報展開を継続実施。 ①「AERA10/17号(大学特集号)」へのタイアップ記事掲載 ②AERA dot. 掲載期間:10/19~11/19 10.025PV 達成。</p>
<p>④令和2年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 令和2年度は、前年度に引き続き、知的資源のデジタル・アーカイブス化への着手や多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の構築を始めとして、具体的な活動が中心になってきた。令和2年度は新型コロナウイルスに見舞われ、「Daito BASIS」の履修状況の変化や、計画していた国立台湾芸術大学とのシンポジウムの実施について危惧されたかが、オンラインシンポジウムに切り替え、各種計画の変更や実施方法の変更により、大きな遅滞なく活動が進められたことは評価できる。外部評価委員にも指摘されていたが、特筆すべき成果が書かれていなかったことが、残念である。コロナ禍のため、令和2年度は授業形態のほとんどがオンデマンドとなり、学生たちの「Daito BASIS」推奨科目の履修に力を入れられなかったのは残念であるが、これらの科目の履修についても、今後はこれまでのブランディング活動が着実に成果をあげられる様に履修を促すことが考えられる。今後も全学研究推進委員会を中心とした全学的なマネジメントの中で、研究事業とブランディング事業の双方が十分な成果が挙げられるよう、活動を進められるよう期待する。</p> <p>(外部評価) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響が及ぶ中において、各プロジェクトが概ね目標を達成したことは評価される。デジタルアーカイブスが一部公開に至ったこと、国立台湾芸術大学とのシンポジウムがオンラインで実施されたことは非常に大きな成果である。ただ、シンポジウムに関しては、双方向性を強く打ち出すことができればより良いものになった。現代における“道”についての研究における思想研究が儒家思想のみに留まってしまったことが惜まれるが、次年度以降への課題として期待するところである。</p>
<p>⑤令和2年度の補助金の使用状況</p>	<p>令和2年度の事業経費として、昨年度に引き続き、主に知的資源のデジタルアーカイブス化にかかる経費を計上、執行した。</p>